

2023年 ウイズコロナに配慮し、ますます 活動を活性化しましょう!!

ごあいさつ

4年間にわたる新型コロナウイルス禍も5月8日に5類へ移行となりました。少しずつ日常生活が戻りつつあります。このところ同窓会活動も広報誌「きずな」の発行と80周年記念講演、80周年記念碑「永遠の絆」の贈呈のみとなっていました。本年こそはいろいろな意味で準備の年としたいと思います。6月5日に体育祭がいつもと同じように開催されたことは、とてもうれしいニュースでした。

コロナ禍で中止を余儀なくされた80周年記念の懇親会を、来年に「85周年」として、会員のみなさまと祝うべく開催できるように準備していきたいと思ひます。

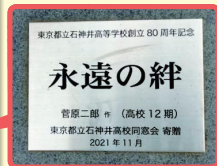
また、役員会だけの同窓会活動には限界があります。各期の幹事会を本格的に稼働できるように、各期幹事の方々に協力をお願いしていきたいと思ひます。

その上で、総会後の懇親会のあり方、文化祭への参加についてな

永遠の絆



台座の銘板



同窓会会長 勝見 鈴代 (高 20 期)

ど、幹事会とともに、会員のみなさんがいっそう楽しく参加できるように、これまでの慣習にとらわれず新しい一歩を踏み出す準備をしたいと思ひます。

本年は、役員改選の年ですが、この2年間は、新型コロナ禍で思うような活動ができないままでした。そこで役員一同留任し、さらに力を合わせて活動させていただきたいと思ひます。

どうぞ、いっそうのご理解とご協力をお願いいたします。

体育祭当日の正門



閉会式での青山杯授与



石神井で教える同窓生教員せいぞろい (第76回体育祭にて)

<定期総会案内>

●2023年度 定期総会

2023年9月30日(土) 14時より 母校4階視聴覚室(黒菱ホール)にて

※懇親会など詳しくはウェブきずなにてお知らせする予定です。



都立石神井高校
同窓会広報誌

「きずな」

第 72 号

2023 年 7 月発行

もくじ

ウイズコロナに配慮し、ますます活動を活性化しましょう!!	表紙	P 1
同窓会の皆さまへ限りある人生を無限に生きよ	P 2	P 1
コロナ禍を乗り越え集う第75期生卒業式と保護者も参加した第78期生の入学式を挙げる	P 3	P 2
恩師に訊く、時代の流れを石神井高校とともに	P 4	P 3
3年ぶりの修学旅行へ行ってきました!	P 7	P 4
活躍する同窓生 Jリーグチームを経営する 横浜マリノス社長に就任して	P 8	P 7
活躍する同窓生 サッカー部リーグ昇格・事務局便り	P 9	P 8
黒菱山荘は今年62歳!ますます元気です!	P 10	P 9
幹事長が語る、各期幹事会のいっそうの活性化で同窓会を盛り上げよう!!!	P 11	P 10
部活OB・OG会報告	P 11	P 11
バスケットボール部OB・OG会報告	P 12	P 12
バレーボール部OB・OG会 2022~2023	P 13	P 13
同期会報告	P 14	P 14
高校19期生同期会開催!新型コロナウイルス下での工夫	P 15	P 15
高校34期生同期会報告 還暦同期会	P 16	P 16
継続を力に!!! 250回を数える放送実績	P 17	P 17
2023年度定期総会開催のご案内/2023年度定期総会議案書	P 18	P 18
伝統の石神井体育祭が復活しました!!	P 19	P 19

同窓会の皆さまへ

限りある人生を無限に生きよ

東京都立石神井高等学校長・(東京都立石神井高等学校同窓会名誉会長) **藤野 泰郎**

都立石神井高等学校同窓会のみなさま、はじめまして。前任の内海校長先生を引き継ぎ、令和5年4月から本校に着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

創立から80年を超える歴史と伝統を誇る本校に着任できたことに心から感謝しています。本校は、全校生徒が一丸となって取り組む体育祭や文化祭などの学校行事、勉強と両輪を成す活発な部活動など、まさに「文武二道」の基本理念を全体で推し進めています。これらの素晴らしい取組は、同窓会のみなさまが母校に想いを寄せ、生徒・教職員を温かく見守り、支えてくれている証です。

去る4月7日、勝見鈴代同窓会会長御臨席の下、第78回入学式を本校体育館にて挙行いたしました。未知の世界に夢を描きながら318名の新1年生が学校生活をスタートさせています。式辞では、本校で少しでも多くの経験を積み、将来、人のため、世のためになる人材となってくれることを切に望んでいると伝えました。3年にわたり私たちの生活を大きく変容させた新型コロナウイルスへの対応も、5月からは通常の感染症対策レベルとなり、教育活動も幅広く実施できるようになったところで、さまざまな伝統行事等での経験が子どもたちの成長に役立ってくれると思います。

さて、私は25年間の教員生活の後、都交通局、

都立スポーツ施設管理運営組織、都教育委員会事務局などで10年間を過ごし、その後、2校の校長を経験して本校に補されました。さまざまな職場、立場で教育について考えてまいりましたが、42年間で私なりに考え至ったことは「生徒にできる限り数多くの体験学習の機会を提供すること」でした。本校はまさにそれを「チーム石神井」で実現させていると思います。そうした教育活動のさらなる充実に向けて微力ながら注力していきたいと存じます。

また、先日、「永遠の絆」のモニュメントを拝見しました。力強いその姿は、伝統校に相応しい創立80周年記念作品だと感銘しました。一方、このメッセージのタイトルに「限りある人生を無限に生きよ」と書かせていただきました。この作品とともに、生徒たちの無限の可能性を最大限生かして生きていって欲しいという私の思いを伝えたく掲出した次第です。生徒たちには、日々記念作品やこの言葉を記憶に留め、力強く成長して欲しいものです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



令和5年度(2023年度)教職員の異動

転出

教科	氏名	異動先	着任
校長	内海 秀一	浅草高校	3.4.1
国語	坂口 裕子	農業高校(非常勤)	30.4.1
国語	大久保亜由美	退職	30.4.1
社会(世界史)	竹下みづき	立川高校(定時制)	31.4.1
数学	細山 彰	退職	30.4.1
数学	柿原 正見	豊島高校	29.4.1
理科(化学)	伊平 憲生	上野高校(非常勤)	31.4.1
保健体育	野口 友輔	府中西高校	25.4.1
企画室長	飯島 永典	新宿特別支援学校	4.4.1
企画室	武藤 有沙	福祉保健局	3.4.1

転入

教科	氏名	前任校
校長	藤野 泰郎	三鷹中等教育学校
国語	濱田 健史	高島高校
国語	柴田 明将	新規採用
社会(世界史)	藤井 真州	足立高校
数学	大岩 淳	新宿山吹高校
数学	木原 唱吾	昭和高校
理科(化学)	泉水 裕二	井草高校
理科(物理)	西 雄樹	南平高校
保健体育	奥浦 隆二	府中西高校
副校長マネジメント支援	鴻巣 浩之	第一商業高校
企画室長	布川 りか	板橋有徳高校
企画室	岡元 渉	新規採用

卒業生進路状況

75期卒業生 主要大学進路状況(合格延べ人数)

国立大学	早・慶・上・理	学・明・青・立・中・法	成蹊・成城・明学・武蔵・國學	日本・東洋・駒澤・専修
宇都宮大学	1	早稲田大学 7	学習院大学 5	成蹊大学 22
茨城大学	1	慶応大学 1	明治大学 20	成城大学 2
埼玉大学	1	上智大学 4	青山学院大学 5	明治学院大学 5
東京学芸大学	2	東京理科大学 3	立教大学 6	武蔵大学 26
東京都立大学	1		中央大学 21	國學院大學 39
			法政大学 39	
計	6	計 15	計 96	計 94
				計 214

卒業式と入学式のご報告

コロナ禍を乗り越え巣立つ第75期生卒業式と 保護者も参加した第78期生の入学式を挙行 — 276名が巣立ち、318名が入学 —

廣瀬 由貴 (石神井高校教諭 高 39 期)

第 75 回卒業式

昨年度の第 75 回卒業式は、3 月 14 日 (火) に行われ、75 期生 276 名が巣立っていきました。この学年は、入学前から学校の休校期間が続いていて、入学式を行うことができず、6 月になって初めて登校し、3 クラスと 4 クラスに分散して「入学セレモニー」を行いました。その後は分散登校が続き、クラスの全員が初めてそろったのは、7 月になってからでした。体育祭は何とか分散開催で行うことができましたが、文化祭は本来の形では実施できず、2 年生で行くはずだった沖縄への修学旅行も中止になりました。卒業生の答辞では、代表生徒がその思いを涙ながらに打ち明け、会場の涙を誘っていました。

第 75 回 卒業式



第 78 回入学式

今年度の第 78 回入学式は、4 月 7 日 (金) に行われ、約 1.7 倍の高倍率を勝ち抜いた 318 名が晴れて石神井高校生となりました。今年の 1 学年は 1 クラス増え、8 クラスになりました。まだあどけなさが残るかわいらしい生徒もいて、真新しい制服に身を包んだ新入生の目は、キラキラ輝いていました。今年は 4 年ぶりに保護者の入場制限が解かれ、会場の体育館が満員になりました。

第 78 回 入学式



恩師に訊く

時代の流れを石神井高校とともに

相田 典子先生(英語科 1960年～1992年在職)



●相田先生プロフィール
台北市に生まれる
奈良女子大学英文科卒業
石神井高校英語科教諭
退職後家庭裁判所家事調停員



授業中の相田先生(1970年代)

●畑の中の校舎

石神井高校に赴任した1960年には、新青梅街道は、まだ、開通してなく、木造校舎のまわりは、キャベツ畑が広がっていました。砂埃のひどいグラウンドには公道が通っていたようで、ランドセルを背負った学校帰りの小学生が、のんびりと歩いているのをよく見かけたものです。女性教員は、英語、国語、家庭科、体育の4人だけ。養護の先生もいませんでした。私が高校生のときには選択科目であった家庭科はいつの間にか女子だけの必修になっていました。



1950年代後半の校舎



木造校舎時代の玄関



1960年代後半の校舎

●古在教授の講演

その年、旧制石神井中学校の第1回の卒業生で世界的な天文学者である古在由秀東大教授の講演会が全校生徒のために行われました。古在教授がアメリカから帰国した直後だったと思います。戦争末期の昭和19年、20年頃、全国民が作業に追われる毎日でした。古在氏は家に帰ってひとりで勉強したこと、大学では好きな天文学を専攻したこと、戦争が終わり時代が変わって、アメリカのアポロ計画に招かれたことを、お話しされ、最後に「学問にも流行り廃りがある」の言葉で締め括りました。

●「偏差値」スタート、そして「学校群」制度に

「偏差値」という聞きなれない言葉を度々耳にするようになったのも1960年代頃から。高校や大学の受験競争は烈しさを増していきました。

それとあいまって、1967年、都立高校入試に学校群制度が導入されました。生徒たちは、必ずしも志望

の学校に入れるとは限られなくなり、なりました。



学校群制度下の合格発表(井草高校にて)

●石神井高校の学園紛争

1968年に東大医学部で端を発した学園紛争は、またたく間に全国に広がりました。石神井高校も例外ではありません。誰かが演説を始めると、たちまち大勢の生徒が集まりました。演説の内容も、教室のバリケードもパターン化していました(69～70年)。

夜中に物音を聞きつけ、生活指導担当の三戸先生(社会)や清水先生(保体)がいち早く対応、バリケードを崩し、生徒たちとの話し合いに応じました。

また、当時の教頭、坊城先生(国語・皇居歌会始の詠み人)は、ご自分の考えをしたためた、い



石神井高校も例外ではなかった



1970年代の校舎の周りはまだ畑でした。
(1972年度卒業アルバムより)

わゆる「坊城書簡」をたびたび生徒に配布しました。

そして、学校全体が、若いエネルギーを体育祭や修学旅行などの学校行事にむけることによって、周辺校よりも早く(71年ころには)平常を取り戻したような気がしています。体育祭では授業中とは別人のような自主性に富んだエネルギッシュな生徒たちの表情を見て驚いたものです。



体育祭閉会後の後夕祭。閉会後にマスコットに使った竹材などをグラウンドに集め燃やして、生徒も教員も火を囲み体育祭の成功を祝い、感謝しました。(1972年度卒業アルバムより)

●NHKの体育祭取材

当時の林教頭(国語・全国高校生放送大会理事)はNHKの取材に対して「(体育祭の)当日だけでなく、(応援やマスコットなど)準備段階からごらんください」と言いました。当日は、赤団も白団も青団もありません。全体が一つになって燃えました。

学生運動の終息とともに、しばらくは平穏な日々が続きましたが、生徒の「気質の変化」が年々早くなっていくような気がしました。

●ゲストチューデント

1977年の9月、チベット系のアメリカ人、ルンドルupp・ノルブ君(2年生、相田担任)とクンガ・ノルブ君(1年生、井田先生担任)が、突然、guest studentsとして石神井に半年間在籍することになりました。詳しい事情は、分からないままでしたが、あるがままに受け入れざるを得ませんでした。彼らは秋の修学旅行にも参加し、グループ行動で、奈良、京都を見学し、宿では、クラスメイトといっしょにトランプを楽しんでいました。しばらくしてわかったことですが、彼らの父親であるノルブ氏はダライラマの実兄で1959年の中国のチベット侵攻のときアメリカに亡命し、インディアナ州立大学の教授となり、1年間交換教授として日本に家族ともども滞在したのです。

●80年代と「クラス通信」

80年代に入り、中学校の校内暴力が、新聞でたびたび取り上げられました。83年に新入生を担当することになり、いかに生徒に向き合うべきか、



1980年ころの校舎

入学前に何度も担任団で話し合いをしました。そしてお互いの情報交換のため、クラス通信を出すことにしました。「今年の新入生は、大変よ、でも石神井に行った生徒はみんないい子ばかり」と近隣の中学校に勤める友人から情報を得ました。たしかにそうでしたが授業中のおしゃべりは今まで経験したことのない程でした。私はクラス通信で、自分が日頃感じている小さな思いを伝えたいと思いました。お知らせ的なもの、お説教は書かないと決めました。最初、ホームルームの時間に配ったとき驚きました。いままで騒がしかった生徒が一瞬シーンとして読んでくれたのです。次のときもそうでした。1年続き、とうとう3年間書き続けました。

●「クラス通信」出版

学年が変わり、クラスが変わっても、クラス通信を取りに来る生徒もいました。3年生の卒業後、帰りの電車の中で門脇先生（社会）から本にするよう勧められ、1986年に出版することができました。そして、思いがけず、朝日新聞、進ゼミエコー等から取材を受けることになったのです。

87年に最後の担任をしたとき、卒業生の保護者から「クラス通信を続けてください。あれを読むのと読まないのでは、高校3年間は大きくかわりますから」と言われ、迷いましたが次の3年間も書き続けました。クラスで配ると、生徒たちが黙々と読んでくれる繰り返しでした。

●90年代になって

92年に定年退職したとき、家庭科は男女共修になりました。石神井でも女性教員が徐々に増え続け英語科も私を含め5人いました。

石神井の広い空の下で、のんびりとした、エネルギーギッシュな生徒たちと時代の変化を感じながらともに歩んだ年月でした。



(1986年 地歴社刊)



(1990年 地歴社刊)



相田先生と生徒たち(1970年代)

現役活動報告

3年ぶりの修学旅行へ行ってきました!

令和5年2月4日から7日までの3泊4日で、3年ぶりに修学旅行が実施され、現3年生が沖縄へ行ってきました。前半の戦跡巡りでは、ガマに入っの暗闇体験を行い、戦場での過酷な生活について話を聞きました。ひめゆり資料館では、生き残った方の手記を真剣に読んでいる生徒が多くいたのが印象的でした。後半はサーターアンダギーやシーサーを作る文化体験、カヌーやサバニボートなどのマリンスポーツ体験を楽しみ、沖縄ならではの修学旅行になりました。曇りや雨の日が多くて残念だったのですが、何よりもよかった

ことは、現地で熱を出す生徒が1人も出ず、病院へは一度も行かなかったことです。修学旅行前後に受けたPCR検査でも陽性者は1人も出ず、本当に奇跡的な修学旅行になりました。本州にはない自然と、残酷な戦争の跡地が表裏一体となった沖縄を訪れたこの修学旅行を通して、生徒たちがいろいろなことを感じ取ってくれたのではないかと思います。

(文・写真 廣瀬由貴 石神井高校教諭・高39期)



ひめゆりの塔の前で黙とう



マリンスポーツ体験(サバニ)



修復中の首里城へ入る守礼の門

活躍する同窓生



Jリーグチームを経営する— 横浜マリノス社長に就任して

横浜マリノス (株)
社長 中山 昭宏 (高 38 期)

◆プロサッカーチームとは

1986(昭和 61)年 3月に石神井高校を卒業しました。それからおよそ 37年経った 2022年 12月、私はプロサッカーチーム Jクラブの横浜マリノス(株)社長に就任しました。クラブ創設 30周年の 2022シーズンを 3年ぶりに J1優勝で締めくくった今、次の 30年にあるべき Jクラブの姿を描き始めています。

サッカークラブはプロの TOPチームを抱えるフットボール部門が中心ではありますが、それを支えるビジネス部門との両輪がうまく連動していることが必要です。たとえばホームゲームでのエンターテイメントやスポンサーイベント、グッズ販売等、サッカービジネスを取り巻く環境は多岐にわたります。

◆Jリーグと横浜 F・マリノス

横浜マリノスはオリジナル 10として Jリーグとともに進化してきました。Jリーグが 30周年を迎え、60クラブになった今、Jクラブもグローバル視点での戦略が必要になっていると考えており、Jリーグとは日本サッカーのあるべき姿を議論しています。横浜 F・マリノスとして、引き続き日本サッカー界の将来に貢献できるクラブであり続けたいと考えています。

◆ホームタウン活動

Jクラブの大切な活動のひとつに地域でのホームタウン活動があります。横浜 F・マリノスはホームタウン 3市(横浜市、横須賀市、大和市)と日々さまざまな活動を進めています。日産自動車サッカー部時代にいち早く少年サッカースクールを立ち上げた歴史を持つ横浜 F・マリノスは、ホームタウンに多くのスクールを展開しています。さらに育成組織として小学生から高校生までのアカデミーを持ち、ホームタウンから世界で活躍するサッカープレイヤーの育成を目指しています。その活動を力強く支えてくださるパートナー・スポンサー企業、ファン・サポーター、ホームタウンの皆さまとともにさらなる発展を目指しています。

◆人々や社会に“夢”と“活力”をもたらす存在に

また、横浜 F・マリノスには知的障害者のチーム“フトゥーロ”があります。J1クラブ唯一の活動として 2004年から継続しています。さらに電動車椅子サッカーもサポートしています。さまざまなハンディキャップのある方が、サッカーを通して喜怒哀楽にあふれる豊かな体験ができることを願い、多様なホームタウン活動を企画・推進しています。

◆異種企業、異文化組織を運営する基礎的観点

大学卒業後、日産自動車(株)に入社しました。その

多くの時間を購買部門で過ごした私は「ビジネスを創る」仕事に従事してきました。日産自動車がルノーの傘下に入った 2年後の 2001年、ルノーと日産自動車が共同出資する形で両社の自動車用部品・サービスの調達に責任を持つ「共同購買会社」が設立され、私は 2003年にその会社へ出向しました。公用語は英語、上司はフランス人。日産自動車および日本人の常識がまったく通じないビジネスの環境で、ほんとうに種々さまざまな経験をしました。26か国にまたがる組織でしたので、何か1つ決めるのも簡単な話はまったくなく、常に Global One Voiceを目指しました。朝起きると太陽の動きに合わせて会話する相手国を変えながら仕事を進める日々を過ごしました。途中、アメリカ赴任(4年間)やルノー社出向(フランス 3年間)も経験し、海外で仕事をやりきる経験も積みました。それらの経験を経て、私は 3つのことを大切にしています。(1)Transparency、(2)Trust、(3)Respectです。サッカー業界と自動車業界、まったく異なるビジネスではありますが、ただ、日本国籍でグローバルを相手にするビジネスに必要なコンピテンシーには通ずるものが多いと感じています。

◆今あらためて石神井高校のすばらしさを認識

まとめにあたり、私個人の人生を 3つの言葉にしてみると、(1)『サッカー好き』(2)『車好き』(3)『グローバル』かと思っています。そんな私がいろいろな経験を通して常日頃大切にしてきた自分なりの考え方の基礎が、石神井高校時代にあると思っています。サッカー一色の高校 3年間でしたが、顧問でもあられた上野二三一先生からいただいたご指導や石神井高校サッカー部の先輩・同期・後輩から学んだこと、また担任の先生方からのご教示等、石神井高校で身に付いたすべてのことがその後の私を支え、大きく成長させてくれました。

中学 3年生の時、進学先をサッカーで選ぶ決心をしていた私は進学先を自分の目で確かめようと放課後の石神井高校を訪れました。そこには今でも忘れない景色がありました。だれも活動していない校庭でしたが、目の前に広がるグラウンドを見た時、自分の進路を確信したのを今でもはっきり覚えています。今思えば、ここが私の人生の大きな入り口だったのかもしれない。

横浜マリノス(株)の社長になった今、上に述べた経験を活かしながら、また石神井高校での学びを基礎としながら、クラブの経営を進めています。そして、さまざまなシーンで「石神井高校出身」と言える自分を誇りに思っています。

部活動レポート

サッカー部リーグ昇格

石神井高校サッカー部は、伝統ある部であり、サッカーだけでなく人間性の向上も大きな目標としており、だれもが応援したくなるようなチームを目指し、日々活動をしています。昨年度は「高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ東京」の3部に所属し、Bブロック優勝、2部リーグ昇格を果たしました。日々、さまざまな方々の応援やサポートがあったおかげだと実感しています。強豪揃いの2部リーグにおいて、都立高校で所属しているのは本校と東久留米総合高校のみ。けれども2部リーグ以上は、芝(人工芝も含む)のピッチでの試合を義務付けられています。石神井のグラウンドに芝はありません。芝のピッチを借りなくてはなりません。厳しい環境です。OB会や同窓会の支援をお願いいたします。今後も結果・チームの質とどちらの面でも応援くださる方々に良い報告ができるよう、がんばりたいと思います。

(石神井高校サッカー部顧問・教諭 西田陽)

サッカー部キャプテンの鈴木壱成です。

自分たちはT2リーグ5位以内、選手権西が丘を目標に日々の練習から質高く、雰囲気良くすることを全員で意識し、チャレンジャー精神をもって活動しています。また、あいさつ、授業中の態度などにも手を抜かず、何事にも全力で取り組むことを心がけています。



事務局便り

はがき・封書用の宛名シールを同窓会負担で幹事の方にお送りします(年1回で)。

また、同期会の開催の仕方、場所選び等々のご相談にも応じます。

同窓会のホームページ「ウェブきずな」、広報誌「きずな」にも同期会開催の案内を掲載しますので、開催内容の原稿をホームページへ送っていただくか事務局までご連絡ください。開催報告も同様にてお願いいたします。ちなみに、下記が今年卒業記念周年を迎える期です。

卒業10年目：高65期(平25卒) / 20年目：高55期(平15年卒) / 30年目：高45期(平成5年卒) / 40年目：高35期(昭58卒) / 50年目：高25期(昭48卒) / 60年目：高15期(昭38卒)

◆会費納入と寄付のお願い

会費は年2,000円です。何年も支払うのを忘れていても遡って支払う必要はありません。今年の分から大丈夫です。同封振込用紙は2000と印刷されている用紙を利用してください。

ご好意で2~3年遡ってのお支払いは大歓迎です。その場合は、寄付金用の振込用紙を利用してください。ご協力よろしくお願いたします。

◆実名を名乗る詐欺電話にご注意ください!

卒業名簿を悪用したと思われる詐欺が発生しています。年々詐欺の手口が巧妙になっています。「現金を振り込んで」、「現金を取りに行かせる」など、怪しい電話は、一度切ってから本人確認をして110番してください。留守番電話にして置くことをお勧めします。

◆会員の皆様の住所変更、ご意見など、同窓会への連絡は下記へ

◆「ウェブきずな」<http://www.shakujii-club.gr.jp/>

◆同封の「通信ハガキ」をご利用ください。

黒菱稼働報告

黒菱山荘は今年62歳!ますます元気です!



石神井黒菱山荘 (2023 年 5 月)

黒菱山荘委員会 委員長 浦川 伸一 (高 32 期)

●感染拡大による制限を緩和

長野県北部、白馬村八方尾根に位置し、永年の風雪に耐え、石神井高校の歴史とともに歩んできました黒菱山荘は、還暦を過ぎました。

2020 年からは、新型コロナウイルスの感染拡大のため、利用者を制限していましたが、2023 年 5 月より感染症の分類も 5 類に変更となり、利用に関する制限は大きく緩和となります。

●石神井高校の「黒菱山荘」

毎度となりますが、まずは黒菱山荘の歩みの紹介をさせていただきます。

地元「対岳館」の丸山与兵衛氏と親交のあった石神井高校の物理教師の黒崎峻先生の声かけにより、八方尾根の黒菱 (標高 1500m) に、1961 年、山小屋が建設されました。黒菱は、古くより、黒菱小屋や明治大学山岳部の山小屋があり、日本の山岳スキー草分けの地でした。

その黒菱の地に、都立高校である石神井高校が山小屋 (山荘) を建てました。そして、石神井高校の教育活動の一翼を担ってきました。

夏・冬・春の長期休業中には、登山・スキー教室が実施されました。数多くの石神井高校生が、豊かな自然の中で、日常では経験できない体験をしました。

1984 年までは、多様な学校行事の場として石神井生が利用した黒菱山荘でしたが、以降学校行事としての利用はなくなりました。当時、学校・PTA・同窓会の三者での所有・運営を行っていましたが、2006 年からは同窓会単独の所有となり、現在、管理運営は同窓会黒菱山荘委員会が行っています。その後も 2011 年ごろまでは、スキー部の自主活動や生物部の利用もありました。

●黒菱の現在 (いま) とこれから

2023 年 4 月、山荘に遅れること 1 年で還暦を迎えられた泉水裕二教諭 (同窓会副会長、黒菱山荘委員会副委員長、高 33 期) が、再任用教員として石神井高校に異動してこられました。黒菱山荘の有効活用について、プランニングやプロモートの主軸として尽力していただけたらと思います。

以下メモ的に現在とこれからの利用のあり方などを示します。

- スキー教室の企画 (2008 年～2011 年まで実施していた) —自然の中でのスキー体験を!
- 夏の八方尾根探索 (植物の観察等をメインに) —自然に興味のある生徒に声をかけ、実施したい!
- 卒業生、PTA、教職員の皆さんの利用のお手伝い
- 石神井生、PTA の皆さんへの広報活動



【補足】

2019 年までは、PTA 文化委員黒菱チームが 1 泊体験旅行を企画し、30 数名の方々に利用していただいていた。新型コロナウイルスにより 3 年間実施できなかったため、黒菱山荘を知っている保護者の方がいなくなっていました。ゼロからの出発になるかもしれませんが、PTA の方々とコンタクトし、リスタートできるように宣伝情報提供を進めたいと思います。

年に数回、委員会メンバーがメンテナンス等のために、白馬村を訪れています。黒菱山荘は、現在も、地元「対岳館」の丸山庄司様・徹也様に大変にお世話になりつつ、何とか維持できています。グリーンシーズン (7 月から 10 月) であれば、小屋の横まで車で行くことができます。自家用車でない方も、新幹線長野駅・在来線白馬駅・高速バス等にて、容易に訪れることが可能です。麓からタクシーの利用もできます。麓には、良い温泉施設が多数あります。さまざまなかたちでの利用が可能です。興味がある方は、下記までご連絡ください。

担当：泉水裕二 (高 33 期) 石神井高校教員

連絡先 090-3512-8423 sensuiy@fuga.ocn.ne.jp

幹事長が語る

各期幹事会のいっそうの活性化で同窓会を盛り上げよう!!!



●上野二三一さん プロフィール
練馬区立田柄小学校
練馬区立開進第三中学校
東京都立石神井高校(サッカー部所属)
東京教育大学体育学部 を経て
東京都立高校教諭(保健体育科)となる
1978(昭和53)年4月
～1989(平成元)年3月(11年間)
都立石神井高校教諭
以降、都立日比谷高校教諭などを歴任。
2020年まで 東京都サッカー協会会長

幹事長・同窓会役員 上野二三一 (高18期)

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校・社会は、制限だらけとなりました。オンラインの活用など工夫はありましたが、やはりリアルが大切です。この3年間ほど、同窓会全体の活動は、工夫を重ねつつ制限の範囲内で役員会を中心に進められました。いっぽう各期幹事の努力と工夫で、素敵な「同期会」をプロデュースした期もあります。少しずつですが、通常を取り戻しつつある現在、あらためて同窓会活動の意義や活性化の工夫について、同窓生であり、母校教員も勤め、たくさんの同窓生を送り出し、幹事長・同窓会役員も担われている上野二三一さんが語ります。

●いろいろな縁がある。同窓生もその一つ

人間関係には、友だち(会社・趣味・飲み屋?等々) 関係や地縁・血縁など多種多様な形がありますよね。多様な関わりが人生を豊かにするという事は、たぶん、みなさんに納得いただけると思います。その中で、縁があって、同じ学校で学び、卒業すると「同窓生」「同期生」「同級生」という関係が生じます。義務教育は、住んでいる地域が関係します。住んでいた場所が至近であったという「奇縁」とともに小学校の同窓生として、共通の話題で話ができる。高校になると小中とはちょっと変わった契機で、同じ学び舎で学ぶ(学んだ)という関係が出てきます。とくに東京都立高校ではかつて「学校群」という制度がありました。杉並区・中野区・練馬区にある都立高校を2校～3校くらいのグループにして、進む高校はグループ内の学校に「振り分け」られました。石神井は34群というグループで、大泉高校・井草高校・石神井高校のどれかに振り分けられました。そこで石神井に入学した生徒の中には、はじめのうちは「大泉が良かったのに」「井草が家から近かったのに」という人がいましたよね。でも、私が知る限り、石神井を卒業した人の多くが「石神井でよかった」と言っていますね。

●人間だけじゃないのか

ちょっと抽象的かもしれないが、まず、好きか嫌いかわなくて、地縁とか職場とかの関係からは逃げることができないし、さらに、ある目的を持った集団に所属した人々が、その集団の中でともに経験・体験したことを後年に思い出したり、懐かしんだりするのは、人間だけの特権みたいなものだと思います。同窓会や同期会という集団・組織を形成し「運営・プロモート」する人は、結局は「ノスタルジー」を基本として、尽力したり、行動しているんだろうと思います。

●たくさんの仲間って楽しい

「友だち100人できるかな」って歌がありますよね。とにかく仲間・友だちは、ありがたい。集まって行動するのは楽しい。個人的には、私は、石神井高校18期生です。団塊の世代ですよ。1クラス55人でした。1学年10クラスという時代です。今の石神井みたいにスペースなんか無い。教室はぎゅうぎゅう詰めでした。エアコンもない。でも、窮屈だとか、狭いとか、私は感じなかった。むしろ多すぎることを楽しんでいたら今になると思います。

教員になって、1978年から母校・石神井高校で保健体育教師となり、サッカー部顧問となり、11年間在籍しました。だから卒業生・教え子も同窓生です。職場の先輩・同僚にも同窓生がいました。

●「永遠の絆」を大事に!!

80周年記念碑「永遠の絆」が、昨年寄贈されました。12期の菅原さんの作品であり、贈呈いただいた。すごいことじゃないですか。石神井から東京芸大、二科会も引っ張られ、大阪芸大で先生もされた。むろんほかの学校にも有名人やタレントさんとかオリンピック選手とかプロアスリートとかいま

す。でも、石神井のきずなは独特だなあと感じますね。34群の大泉や井草も同窓会や部活 OBOG会があり、それなりに活動しているが、石神井の「校風」は、独特だといくつかの学校で勤務して感じました。この「校風」は大切にしたいと思っています。

●若い力を同窓会活動に

上に述べてきたことを整理すると①共有体験・思い出の共有が、同窓会を構成する要素の1番目かなと思います。18歳選挙権とか成人とかいうのが、大人の前段階で、仲間と成功も挫折もいっしょに体験し、人格を形成し、大学や社会でそれが基盤となって人間が磨かれる。そういう場を提供してくれるのも同窓会です。お金、賃金とかを稼ぐところじゃない。こういう場は、大切にしたいです。

②石神井高校の場合は、旧制中学→男子校→普通高校(男女共学、現代では男女なんか区別する必要もないかも)という流れの中で、ほんとうに他校と比べてめずらしいくらい「自由」「ちょっと荒っぽいけど、活動的」「仲間の強いつながり」がありますよね。今でこそ「文武二道」をヴィジョンに掲げているが、もうずーっと前から(創立から?)受け継がれた特徴というか雰囲気=校風です。そういう観点からも同窓会の活動、同期会の活性化には、エネルギーいっぱい「若手」の役割に期待したいですね。校風は見事に維持されているのだから。

●恩師とともに

石神井には昭和の時代では、寺沢先生(通称ガンちゃん、保体)、石木先生(社会)、三戸先生(社会)、牧野先生(国語)などなど、個性的な、いわゆる名物先生が数え切れないほどたくさんおられました。私がいたころには亀崎先生(数学)、大塚先生(英語)、柴田先生(保体)、浅井先生(数学)など授業だけでなく部活や行事にも全力投球してくださり、生徒の生き方にダイレクトに関わり、影響を与えてくれました。そうした恩師についての共通な話題が同窓会活動を構成する大事な要素になると思うのです。

●個人の意思是尊重

私としては、石神井同窓会について積極的に評価するし、皆さんとその意義や楽しさを確認したいと思います。一方で同窓会は基本的に「任意の団体」であることから、同窓会に対する個人の思いは尊重されなければならないと考えています。

これまで述べてきたように、人間が基本的に持っている「仲間(集団)への帰属欲求」を再確認し、石神井高校での純粋な青年時代を回想し、回帰することができるという意味で、同窓会・同期会をもっともっとアクティブに企画・運営したいし、繰り返しになるけれども、若い人を中心に中核になってもらいたい、大事に発展させたいと、あらためて思います。

(5月12日談、文責:編集部)

部活OB・OG会報告

バスケットボール部OB・OG会報告

2022年度の活動と2023年度の活動予定

山本 正興 (高37期、OB・OG会長)

☆ 2022 年度の活動報告 ☆

- ◇ 3月21日(火)納会：久しぶりに実施。新卒参加、OB・OGは昼、夜合わせて約50人参加。
- ◇ 8月26日(金)第11回山下カップ【石神井・大泉現役交流戦】& OB・OG戦：東京五輪のための改装工事により使用できなかった代々木第2体育館で、久しぶりの実施。石神井・大泉の観戦者合わせて50人以上参加で盛会となりました。

〈その他有志の活動〉

- ①現役の試合応援：多数のみなさま、応援ありがとうございました。
新人戦の本大会から保護者の観戦可能となり、インターハイ予選からはすべて観戦可となりました。
- ②ハイキング同好会：
秋晴れの信州思いきり歩こう(9月17、18日)
蓼科スキー(1月7日～9日)

〈現役の状況〉

少しずつ普通に戻ってきました。現2年生は男女とも入部者が少なかったのですが、今年は、男子19人、女子12人が入部。夏合宿は昨年男子のみ実施だったが、今年は男女ともに実施予定です。また、倉口先生(高33期)は、再任用となり、今年も指導されています。新人戦の結果は、男子は本大会に出場、女子は2回戦突破となりました。一方、大学進学状況についてはほぼ現役合格、また、有名私大にも多数合格となり、今年も石神井高校のスローガンである『文武二道』を両立しました。

☆ 2023 年度の活動予定 ☆

- ◇ 8月26日(土)第12回山下カップ【石神井・大泉現役交流戦】& OBOG戦：今年は石神井高校が会場となります。午前中に現役、午後はOBOG戦を予定。昨年は合同の懇親会ができませんでしたが、今年は実施予定です。@石神井高校 懇親会@武蔵関近辺 詳細は別途連絡します。
- ◇ 11月25日(土)大忘年会：18時～@JUNONN(荻窪)開催予定
- ◇ 3月23日(土)頃 納会予定
⇒詳細は決定次第お知らせします。
- ◇ OB・OG会ホームページを制作予定
- ◇ 現役応援活動 企画検討中：応援をよろしくお願いたします。
- ※ 2023年度OB・OG会費・援助費のご協力お願いいたします。今年は男女ともに夏合宿を予定しています。できれば現役に援助したいと考えています。下記の口座に振り込んでいただけるとたいへんありがたいです。

振込口座などにつきましては、お手数ですが加藤へお問い合わせください。

銀行：三井住友銀行武蔵関支店
 口座：普通 665 - 5369962
 名義：石神井バスケットボール部 OB 会
 会費：3,000円、援助費1,000円/一口
 お問い合わせ：shakujibasket@yahoo.co.jp 加藤(高30期)

バスケットボール部OB・OGと現役生



バレーボール部OB・OG会 2022~2023

今年度は8月に「現役との交流会」を開催

荒川 英彦(高25期)、村田 典子(高33期)、太田 順子(高34期)

◆新型コロナ禍の影響が続いたことから、「OB・OG会」は2018年11月の開催、「現役生との交流会」は2019年8月の開催、以来、活動を行うことができませんでした。2023年度は、社会状況の変化に伴って、バレーボール部OB・OG会の活動を再開できるように検討を行ってまいりました。

◆「現役生との交流会」は母校のご協力をいただき開催することが決定しました。8月27日(日)9時より、母校体育館にて実施します。久々の開催で、現役生との交流、バレーボールに触る機会となります。ぜひ参加の検討をお願いします。大勢のOB・OGの参加をお待ちしています。なお、詳細な実施内容が決まりましたらバレーボール部OB・OG会よりメールでご連絡します。(連絡メールアドレスの登録については末尾を参照してください。)同期ライン等での横での連絡もお願いします。

◆「OB・OG会」については参加者の年代の幅広さに応じた実施内容等を引き続き見極めていきます。バレーボール部OB・OG会は、今後とも母校とバレーボール部を縦糸に、OB・OG会員を横糸に、「きずな」を深めていきたいと考えています。

◆3月に75期生13名(内1名がマネージャー)が卒業し、新OGとなりました。今年度、女子バレーボール部は、3年生(76期)7名(5月末で引退)、2年生

(77期)8名(内1名がマネージャー)、1年生(78期)7名で活動中です。昨年同様、主顧問の脇山久親先生、副顧問の高嶋薫先生のご指導をいただき、月曜日と隔週金曜日が休み、土日の何れか1日を練習日にして練習に励んでいます。今年は、コロナ禍で行えなかった夏の合宿を実施する方向で企画検討中とのことです。また、「OB・OGによる専任コーチ」は不在のままですが、引き続き、OB・OGの有志による練習参加が行われています。

◆バレーボール部OB・OG会ではメールでのご連絡を行っており、すでに多くのアドレス登録をいただいています。「現役生との交流会」等の活動の開催連絡をタイムリーにお伝えするためにも、未登録の方は是非登録をお願いします。なお、7月初めから現役生との交流会についてメール連絡しましたが、受信拒否、アドレス変更によりメールが届かないケースがあります。確認をお願いします。アドレス変更を行われた際には、再登録をお願いします。以下のメールアドレスへ「氏名、卒業年 or 期」を記入して送信してください。

syakujiivolleyballobog@gmail.com



あるいはQRコードをご利用ください。

バレーボール部OB・OG会へのご要望、ご連絡についてもメールアドレスにご連絡ください。

高嶋先生と現役生



33期村田さんと現役生



脇山先生と現役生



【現役集合】

前列 3年生(76期)、中列 2年生(77期)右、後列 1年生(78期)左 脇山先生 右 高嶋先生



同期会報告

高校 19 期生同期会開催 —新型コロナウイルス下での工夫 同期生から 2 名の叙勲者



高 19 期 稲村純三
「旭日中綬章」を受章されました。
明電舎特別顧問 (元社長)



高 19 期 大塚敬二郎
「瑞宝重光章」を受章されました。
神戸大学特命教授、日本学士院
会員など

高校19期生同期会は、頻回開催を目指すものの、集まる同級生にもプロモートする幹事会にも、各人さまざまな「本業」があり、さまざまな可能性を探りつつ声をかけあって開催されてきました。

新型コロナウイルス感染症による規制下においても、会場設定など、いろいろに工夫し、参加者各人それぞれが気を付け、会場テーブルには飛沫飛散防止の亚克力板を設置するなどして、集い、旧交を温めました。

今回、報告するのは、2年前の状況です。まだまだ規制が厳しい中でした。

しかし、同期生みんなが集うこととともに、同期生2名が叙勲されるという栄誉を報告・祝賀する意味合いも含んでいました。

ほぼ全員が、いわゆる「現職」は退いているものの、それまでの功績や実績は、我が国の学会や業界・経済界に多大の貢献をしています。

叙勲されたお二人をあいうえお順で紹介します。

★稲村純三さんは、「旭日中綬章」を受章されました。政治家・官僚・自治体の首長などに授与されることが多いものの、「経済社会の発展に寄与が特に大きい企業の最高責任者」が対象とされます。

稲村氏は、石神井高校から慶応大学に進み、1971年3月に大学卒業、4月に株式会社明電舎

に入社し、2008年には同社社長に就任されました。2019年に同社特別顧問として業界・後進をリードおよび指導し、今日に至ります。

社長在任中のリーマンショック、世界同時株安（不況）という困難な状況下でも、優秀な経営手腕を示し、また、東日本大震災直後から、先頭に立って被災地復旧に尽力し、結果として業界の発展に寄与したことが高く評価されたものといえます。

★大塚啓二郎教授（神戸大学特命教授、日本学士院会員など）は、石神井高校から北海道大学、東京都立大学を経て米国シカゴ大学にて学位（経済学博士）を取得されました。

我が国内にとどまらない世界的な活躍（開発経済学の普及・発展）については、すでに「きずな」（第68号、2020年）にて紹介済みです。このたびは、2010年の「紫綬褒章」（科学技術分野における発明・発見や学術及びスポーツ・芸術文化における優れた業績への授与）に続く「瑞宝重光章」受章です。受章者は、裁判官や大学学長が多いのですが、「公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度など」が評価され、「特に重要と認められる職務を果たし成績をあげた」人に授与されるものです（閣議決定「勲章の授与基準」などによる）。

（文責：編集部 画像提供：末広彰・青木建三）

高校34期同期会報告 還暦同期会

帝国ホテルに120名集結、ゴルフコンペも

津田 昌隆 (高34期)

2023年4月16日(日)、第34期生は、還暦を迎える節目の年度に「還暦同期会」を帝国ホテルにおいて開催しました。34期同期会は、卒業30年目に開催した前回に続いて2回目の開催となります。今回も約120名の同期生が集まり、久方ぶりの再会を喜び、会話を楽しむ中でいつの間にか高校時代にタイムスリップしたかのような不思議かつ思い出に残る時間をともに過ご

しました。そして10年後の「古希同窓会」での再会を約束し、最後に全員で記念撮影をして名残惜しいなか閉会しました。

また、翌月の5月20日(土)には、埼玉G.Cにおいて「第34期ゴルフコンペ～還暦オープン～」を開催し、グリーン上でも親睦を深めました。

(ボードメンバー 山崎芳枝、石田均、児玉健二)

34期生の還暦同期会(帝国ホテルにて)



継続を力に!!! 250回を数える放送実績

●FM84.2MHz
●<https://842fm.com>



—FM 西東京「石神井フォーエバー」をみんなで盛り上げよう！

同窓会が、ラジオ放送の番組を提供するという全国でもまだまだレアな活動を石神井高校同窓会が、先駆けて5年になります。

はじめは、隔週土曜日の放送でしたが、現在は毎週土曜日にオンエアしています。別表の放送リストをご参照ください。

現在のスタッフをご紹介します。

MC・パーソナリティーは、トミー上野（高17期）、北久美子（高34期）、林豊（高46期）、江尻チハル（高47期）、岡本裕輝（高55期）の各氏が、引き続きそれぞれの個性を発揮して担当しています。技術・ディレクターは、板谷方彦（高27期／同窓会副会長（広報担当））です。

この3年ほどは、新型コロナウイルスの規制の下で、スタジオでの収録が難しく、パーソナリティーの自宅での収録やオンライン（Zoom会議）を活用し、国内だけではなく、外国で活躍する同窓生をゲストに招くなど、工夫を重ねてきました。

ようやく感染症規制が緩和されてきたため、たとえば西武新宿線田無駅隣接の「町（まち）テナ」スタジオにての収録が可能となっています。

オンエア回数は250回を超えました。

これからは、もっともっと多くの同窓生に番組



田無駅まちテナ外からの様子(2023年5月)

の企画や制作・進行などに参画してもらいたいと思います。年代は問いません。何より継続することが、番組としての力を醸成します。そして、同窓会活動活性化・活発化を促進します。みんなで「石神井フォーエバー」を盛り上げましょう。

(文責：編集部)



石神井高校での校長先生の収録(2023年7月)

★「石神井フォーエバー」を聴くには

- ラジオでFM84.2MHz FM西東京にチューニング
(聴取可能なエリアが西東京市周辺となります)
毎週土曜日 21:00~21:15
- インターネット <https://842fm.com>
- Facebook 「石神井フォーエバー」を検索
- QRコード



◆LINEのグループをスタートしています。



田無駅まちテナ内にてのスナップ(2023年5月)

2022年7月から2023年7月までの「石神井フォーエバー！」放送内容

敬称略

年	放送日	回	MC 担当者	取材方法(他)	ゲスト (卒業期)	テーマ・話題など
2022年	7月 2日	#201	林	Zoom	小山義博(25)	NYに住んで思うこと、演奏ダイジェストを収録
	7月 9日	#202	上野	Zoom		企業合併の裏話
	7月16日	#203	有坂	Zoom	柴田峯(36)	サッカー JFL ラインメール青森監督
	7月23日	#204	〃	〃	〃	〃
	7月30日	#205	上野	宅録		都立高校学校群について
	8月 6日	#206	林	Zoom	長浜(長島)あき子(46)	沖縄 読谷村での暮らしについて
	8月13日	#207	〃	〃	〃	メンタルトレーニングとは
	8月20日	#208	上野	宅録		世界のホテル事情について
	8月27日	#209	上野	〃		
	9月 3日	#210	上野	〃		
	9月10日	#211	林	Zoom	板谷方彦(27)	東京校歌祭のご紹介
	9月17日	#212	上野・北	Zoom		エリザベス女王逝去など、あれこれ
	9月24日	#213	林	Zoom	福田互(46)	テレビ朝日ニュースチーム・報道カメラマン
	10月 1日	#214	上野・北	Zoom		身近な“お悩み”について
	10月 8日	#215	林	Zoom	矢島衛(55)	新潟県小清水村で、クラウドファンディングでカフェをオープン!
	10月15日	#216	上野	宅録		本屋さんが減っている問題
	10月22日	#217	林	Zoom	門坂修(25)	放送部の思い出、それと今お勤めの「小江戸川越観光協会」のお話など
	10月29日	#218	林	Zoom	上野俊彦(17)	銀行員時代の裏話、三億円事件のお話など
	11月 5日	#219	有坂	Zoom	古谷裕樹(65)	古民家を使ったサッカー合宿、そのクラウドファンディングなど
	11月12日	#220	上野	宅録		英語に聞こえるけど英語ではない「言葉」
	11月19日	#221	上野	宅録		香港のお話 Part1
	11月26日	#222	上野	宅録		香港の思い出、美味しいもの等
	12月 3日	#223	林	Zoom	有坂哲	コスタリカでプロサッカー選手だった、有坂さん。海外サッカー体験等
	12月10日	#224	林	Zoom	北	今年を振り返って
	12月17日	#225	上野	宅録		
	12月24日	#226	北	Zoom	佐藤馨(46)	狭山市でギター教室を指導
	12月31日	#227	林	Zoom	小島快(53)	地域の強豪サッカークラブ「FC 大泉学園」を指導
2023年	1月 7日	#228	林	Zoom	高田悠(55)	新しくパーソナリティに参加の高田さん。初登場。
	1月14日	#229	上野	宅録		日本人が海外で暮らす、ということ
	1月21日	#230	林	Zoom	岡英城(46)	構成作家岡英城さん、2023年のトレンドを語る
	1月28日	#231	上野	Zoom	高田悠(55)	新パーソナリティ高田さん第二弾、シニア世代のトミー上野さんと
	2月 4日	#232	林	宅録		DJスタイルでお届け。
	2月11日	#233	上野	宅録		パスポートの思い出
	2月18日	#234	林	Zoom	白鳥マイカ(47)	白鳥さんの曲紹介など
	2月25日	#235	上野	宅録		日本銀行とはなんぞや?
	3月 4日	#236	高田	Zoom	佐藤(藤井)麻美(55)	小田原でアイシングクッキーの教室をはじめました!
	3月11日	#237	上野	宅録		Debate のお話
	3月18日	#238	林	Zoom	木村好一(24)	石神井 Wikipedia について
	3月25日	#239	上野	宅録		世界の人々の名前のお話
	4月 1日	#240	林	Zoom	木村好一(24)	今年の卒業式の様子
	4月 8日	#241	上野	宅録		老人ホームのヘルパーのこと、古在由秀先輩のこと
	4月15日	#242	林	Zoom	木村好一(24)	今年の入学式と同窓会
	4月22日	#243	上野	宅録		
	4月29日	#244	林	Zoom	新妻東一(33)	コロナ後のベトナム事情、あちらのヒット曲
	5月 6日	#245	林	Zoom	高田(55)、白鳥マイカ(47)	石神井マッチング、シンガーソングライター白鳥さんに聞く
	5月13日	#246	林			先週のPart2
	5月20日	#247	林	マチてな	八十川真由野(35)	文学座所属の、女優、声優として活躍の八十川さん
	5月27日	#248	林	〃		前回の続き!
	6月 3日	#249	林	Zoom	高橋佐江子(46)有坂哲(46)	高校の運動部キャプテンの経験から学んだこと
	6月10日	#250	林	FM西東京	中山昭宏(38)	サッカーJリーグ・横浜マリノス代表取締役社長に聞く
	6月17日	#251	林	〃	〃	〃
	6月24日	#252	北	SoundShot	本間真澄	ご自分の音楽ユニット MASUMI STADIUM の紹介など
	7月 1日	#253	上野	校長室	石神井高校藤野校長	新しく赴任された母校校長先生に聞く
	7月 8日	#254	林	Zoom	加渡主悟(67)	視覚障害者のためのブラインドサッカーの普及につとめています。
7月15日	#255	上野	宅録		クレジットカードについて	
7月22日	#256	林	Zoom	加渡主悟(67)	社会貢献業務について、ブラインドサッカー世界大会に出場	

●みんなで企画し、稀有な同窓会提供ラジオ放送を盛り上げよう

「石神井フォーエバー」をもっともっと広めるため、この「きずな」をご覧のみなさんに番組の企画にご参画お願いいたします。ゲストへの自薦他薦、こんな企画といったプランを教えてください。同窓会ホームページ「ウェブきずな」にご投稿ください。

会員各位

2023 年度定期総会開催のご案内

2023 年度定期総会を下記の通り開催致します。ご多忙中恐縮ですが、万障繰り合わせの上ご出席いただきますようご案内申し上げます。なお、例年本会終了後ささやかな懇親会を行っています。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、開催を検討しましたが、準備不足のため今回は中止いたします。来年度は、役員をはじめ各期の幹事の方々とともに、楽しい懇親会を開催できるよう準備をしていきます。ご理解のほどお願いいたします。

東京都立石神井高校 同窓会 会長 勝見 鈴代 (高 20 期)

〈記〉

1. 開催日時：2023 年 9 月 30 日土曜日 14 時より
2. 開催場所：母校 4 階視聴覚室 (黒菱ホール)

注：学校の授業の都合や、諸般の事情で日程が変更になる場合がありますので、同窓会ホームページ「ウェブきずな」等で確認してください。

2023 年度定期総会議案書

議 題

- 第 1 号議案 2022 年度事業報告
- 第 2 号議案 2022 年度収支報告
- 第 3 号議案 2023 年度事業計画
- 第 4 号議案 2023 年度予算案
- 第 5 号議案 役員改選

報告事項

- 1 教育支援基金
- 2 その他

第 1 号議案 2022 年度事業報告

＜ 2022 年 ＞

- 4 月 入学式に来賓として、会長、副会長が出席
約 1.7 倍の高倍率を勝ち抜いた 77 期 278 名の入学を祝いました。
- 15 日 「きずな」71 打合せ
- 26 日 一般会計の会計監査を実施
- 5 月 28 日 体育祭視察
3 年ぶりに復活した生徒全員による石神井の体育祭が復活
スウェーデンリレーの勝者に会長が青山杯 (男子勝者) と関町杯 (女子勝者) を

授与

- 9 月 2 日 役員会開催 (総会対策)
文化祭には準備不足のため不参加
- 9 月 17 日 総会開催
全て議案通り承認された
(総会後開催の懇親会は今回もコロナ禍で中止とした)
- 10 月 校歌祭は自由参加となり石神井は不参加
例年 4 月と 10 月に開催されている同窓会連絡協議会についても、コロナ禍のため開催中止
- 12 月 2 日 役員会 (来年度活動方針、きずな発行の件)
＜ 2023 年 ＞
- 1 月 31 日 役員会 (きずな発行の件)
- 3 月 14 日 75 期卒業式に来賓として、会長、副会長が出席
入学式もできずコロナ禍での 3 年間を過ごした 75 期の生徒たちのこれかの活躍を心から願い祝福した。卒業生全員に同窓会案内のしおりと紅白饅頭を贈呈
新幹事歓迎会は新型コロナウイルスによる感染症流行による自粛により中止

第 2 号議案 2022 年度収支報告

2022 年度 決算報告書

収入の部

(単位：千円)

	2022 年度予算	2022 年度実績	備 考
前期繰越金	1,760	1,760	
入 会 金	1,250	1,335	
年 会 費	4,000	4,728	
雑 収 入	100	0	
合 計	7,110	7,823	

上記の通り、2022 年度会計収支を決算して報告いたします。

会 計 上 野 俊 彦 (高 17 期)

上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。

2023 年 4 月 24 日 会計監査 廣瀬 由貴 (高 39 期)
会計監査 加藤 純子 (高 30 期)

支出の部

(単位：千円)

	2022 年度予算	2022 年度実績	備 考
総 会 費	10	23	
本 部 費	200	258	
広 報 費	2,600	3,176	ウェブ「きずな」のリモデル等
発 送 費	1,900	1,900	
行 事 費	50	0	
山 荘 費	300	300	
新 会 員 費	270	337	
予 備 費	50	0	
小 計	5,380	5,994	
次 期 繰 越 金	1,730	1,829	
合 計	7,110	7,823	

第 3 号議案 2023 年度事業計画 (案)

＜ 2023 年 ＞

4 月 7 日 78 期入学に来賓として、会長、副会長
が出席
「きずな」72 号打合せ
5 月 役員会開催予定 (きずな 72 号発行と総
会について)
6 月 3 日 体育祭視察予定
役員会開催 (幹事会復活について)
7 月 役員会開催 (幹事会復活、総会、懇親会、

文化祭参加について)
8 月 役員会開催 (幹事会、総会、懇親会、
文化祭参加について)
9 月 16 日 文化祭参加予定
30 日 2023 年度定期総会開催
12 月 3 日 校歌祭参加予定
同窓会連絡協議会開催予定 (開催月未定)

＜ 2024 年 ＞

1 月 役員会開催予定
3 月 卒業式出席予定

第 4 号議案

2023 年度 予算 (案)

収入の部 (単位：千円)

	2023 年度予算	備 考
前期繰越金	1,829	
入 会 金	1,350	
年 会 費	4,500	
雑 収 入	100	
合 計	7,779	

支出の部 (単位：千円)

	2023 年度予算	備 考
総 会 費	30	
本 部 費	300	
広 報 費	2,700	
発 送 費	2,000	
行 事 費	50	
山 荘 費	300	
新 会 員 費	250	
予 備 費	10	
小 計	5,640	
次期繰越金	2,139	
合 計	7,779	

第 5 号議案 役員改選

この 2 年間は、新型コロナ禍の制約の中、同窓会活動は広報誌「きずな」の発行と 80 周年記念講演開催および 80 周年記念碑「永遠の絆」贈呈のみとなりました。
役員一同留任し、新たな気持ちで会員の皆さんに参加していただける同窓会活動を考えていきたいと思
います。

ご理解とご協力をお願い致します。

顧 問 大久保 利一 (高 17 期)
会 長 勝見 鈴代 (高 20 期)

副会長 板谷 方彦 (高 27 期)
副会長 浦川 伸一 (高 32 期)
副会長 木村 好一 (高 24 期)
副会長 泉水 裕二 (高 33 期)
会 計 上野 俊彦 (高 17 期)
書 記 門坂 修 (高 25 期)
書 記 宮川 明 (高 25 期)
会計監査 加藤 純子 (高 30 期)
会計監査 廣瀬 由貴 (高 39 期)

報告事項 教育支援基金会計収支報告および運営状況について

2022 年度教育支援基金収支報告

収入の部
寄付金収入 1,027,096 円
前年度からの繰越金 1,461,930 円
収入合計 2,489,026 円

支出の部
振替手数料 32,663 円
受払状況調書代 1,100 円
体育祭応援団学ランレンタルクリーニング代として 559,900 円
支出合計 593,663 円

収支残高 1,895,363 円

上記支援基金会計収支を監査した結果適正であることを認めます。
2023 年 6 月 27 日 会計監査 加藤純子 (高 30 期)
会計監査 廣瀬由貴 (高 39 期)

☆ 2023 年 3 月 31 日現在の残高である 1,895,363 円につきましては、学校側と協議の上、母校発展と生徒応援のため、大切に使用させていただきますとともに、2024 年度の広報誌「きずな」にて、ご報告させていただきます。ご支援を頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

2021 年度までの支援基金明細

修学旅行講師お礼 50,000 円
校庭防御ネット 420,000 円
プリティッシュヒルズ研修補助 1,617,044 円
地球ステージ講習会補助 33,300 円
サテライト講座講習補助 750,000 円
校歌歌詞横断幕 200,000 円
部活支援 525,720 円
(水泳部、生物部、美術部、ラグビー部、
男子バスケットボール部、吹奏楽部)
テント 1 張 232,470 円
イギリス留学支援 360,000 円
グラウンド照明柱電球交換 300,600 円
パソコン 1 台 100,000 円
カウンセラー派遣補助 35,000 円
応援団剣道着袴購入 463,352 円
ラグビー部懸垂幕製作費 64,020 円
男子バスケットボール部横断幕作製 81,972 円
テニスコート照明器具電球及びスイッチ交換 246,565 円
体育祭応援団衣装レンタル及びクリーニング代 1,023,100 円
創立 80 周年記念碑設置工事代金 484,000 円

※ 2018 年 7 月より支援基金の第 2 次募集を開始させていただいておりますが、早々に多数のご寄付をいただき、まことにありがとうございます。同窓会からの支援が現役生徒に直接伝えられる手段です。今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伝統の石神井体育祭が復活しました!! 4年ぶりのフルサイズ、これが石神井高校体育祭!

第76回体育祭は、6月3日(土)に実施予定でしたが、悪天候のため順延になり、6月5日(月)に行われました。3年前と2年前は、新型コロナウイルスの影響により学年別体育大会として実施し、昨年は、騎馬戦や棒倒しはできないなかでも何とか全学年そろっての体育祭を行うことができました。そして今年はいよいよ、伝統の体育祭がフルサイズで復活しました。苦しい状況でも何とか3年間つないできた応援団は、4年ぶりに騎馬を組んでエール交換を行いました。ようやく戻ってきた!これが石神井の体育祭だ!!

(文: 廣瀬 由貴 石神井高校教諭 高39期、写真: 廣瀬 由貴、橋本 恒夫 高20期)

体育祭開会式



4年ぶりに騎馬を組んだ
エール交換・赤団



赤団マスコット



赤団マスゲーム



4年ぶりに騎馬を組んだエール交換・青団



4年ぶりに騎馬を組んだエール交換・白団



青団マスコット



青団マスゲーム



白団マスコット



白団マスゲーム



部活対抗リレー



閉会式での三団統一の歌

